本の題名 くろいはまべ

なんとかしなければ

四年　柘植　葵衣

「くろいはまべ」を読んで、印象にのこった場面が2つあります。

一つ目は、海が石油で真っ黒くなってしまった場面です。本の絵を見た時は、あたりいちめん真っ黒の海になっていて、きれいだった海がいっしゅんで黒くなってしまい、おそろしく、悲しくなりました。

二つ目は、黒い海を見たアメリカの人々がなんとかしなければと、強く思い自分たちから、環境問題についての行動を起こせて、すごいなと思いました。

わたしが、公園に行った時、タバコの箱やあきかんなどのゴミがたくさん落ちていました。これを見た時、「なぜポイ捨てするの？」「ポイ捨てをしていい気持ちになる人はいないのに」と思いました。

また、電車にのった時、足元にペットボトルが転がっていましたが、電車にのっていた

アビカ 20×20

人たちは、けいたいにむちゅうで、まったく気がついていませんでした。それでわたしは、ペットボトルをひろいました。ひろった時、「なぜみんな落ちているペットボトルをひろわないのかな」と思いました。

この本の海が黒くなった時のように、公園の時と電車の時も同じ悲しい気持ちになりました。だから、これを見て、「なんとかしなければ」と思いました。それで、毎日ハンカチ、ティッシュと一緒にポケットに、ビニールぶくろを入れて、ゴミひろいをしています。ポケットや、かばんの中にビニールぶくろを入れておくと、近くにゴミ箱がなくても、ひろったゴミをビニールぶくろに入れて持って帰れます。ビニールぶくろが一つあるだけでゴミひろいがしやすくなります。ゴミひろいをもっとたくさんの人々にしてもらいたいので、ビニールぶくろをポケットや、かばんに入れてもらい、ゴミひろいをする活動をみんなで、していきたいです。

アピカ 20×20